

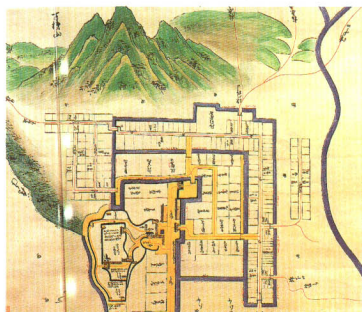
かめがじょうあと

③1 亀ヶ城跡 (古城跡・古城町・茶園・南半坂)

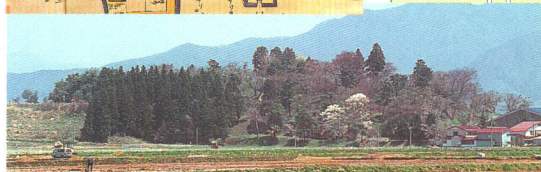
磐梯山南麓の泥流地形突端部に築かれた平山城で、中世この地を支配した猪苗代氏々の居城といわれます。猪苗代氏は文治五年(1189)奥州征伐の戦功により会津四郡を賜ったとされる佐原義連の孫経連を初代とし、葦名氏の同族とされています。しかし古くから独立性が強く、葦名氏とは度々争っており、摺上原の戦いでは盛國は伊達側、その子盛胤は葦名側について戦いました。

また本城は一国一城令の際も破却されず、近世を通じて城代が置かれ、幕末まで会津藩東の要として残されました。その後戊辰戦争によって建物等は焼失してしまいましたが、明治三十八年(1905)小林助治・才治父子二代を中心とした町内の有志が、私財を投じて桜やツツジを植栽し、東屋や観月橋を設けて町民憩の場として整備しました。

現在は町管理の公園となっていますが、土塁や石垣、空堀の一部が残されており、往時を偲ぶことができます。(町指定史跡)



猪苗代城下絵図



亀ヶ城跡遠景



門跡に残る石垣



八手山城跡遠景

はってやまじょうあと

③2 八手山城跡 (八幡・根岸・牧山)

白津集落の北東にある山城で、川桁山の西へ張り出した尾根上に立地しています。梯郭式の山城で、麓の愛宕神社より峯上の風神を祭る小祠まで、土塁・空堀によって大小の郭が形成されています。年代は不明で『会津古塁記』には建久2年(1191)築城、亀城と称すとありますが、その形態から南北朝以降に築かれたものと考えられます。



猪苗代氏系図【那麻郡誌】

初代・経連一二代・経泰一三代・盛経一四代・盛通一五代・盛泰一六代・時盛一七代・盛親一八代・盛政一九代・盛明一十代・盛光一十一代・盛行一十二代・盛景一十三代・盛國一十四代・盛胤